



大和総研（ロンドン駐在） シニアエコノミスト

菅野 沙織

新興国経済

V字回復を遂げる
ロシア銀行セクター

2017年入り後もロシア経済の回復は加速している。実際、17年第1四半期のGDP成長率は前年同期比0.5%であったが、第2四半期には同2.5%となり、今年は3年ぶりのプラス成長への期待が高まっている。企業の経済活動の活発化や個人消費の改善を追い風にロシア銀行セクターの業績も向上しており、投資家に注目されている。

ロシア中銀のデータによれば、17年上半期に銀行セクターの資産が2.2%、融資が1.8%（企業向けは1.0%、個人向けは3.8%）それぞれ増加し、同セクターの収益は1年前と比較して倍増した。15年10月にゼロに陥っていたROEはV字回復をみせ、17年5月には14%に達している。

個別銀行でみると、ロシア最大の国営ズベルバンクで17年1~7月期の純利益が前年同期比36%増（ロシア会計基準）となったほか、民間最大のアルファバンクは17年上半期の純利益が同2.7倍（国際会計基準）と、業績が急回復した。加えて、業績を一段と伸ばすべく、さらなる業務効率化やコストパフォーマンス改善に注力している。たとえば、現在、ズベルバンクの顧客1億35

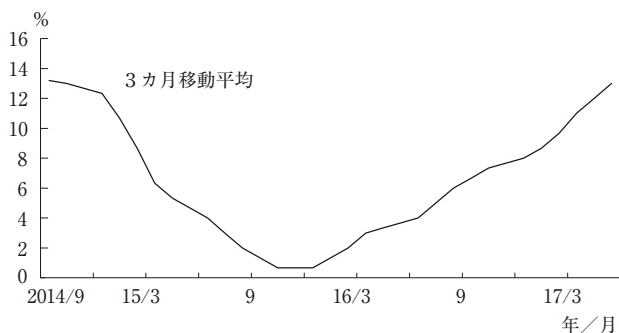
00万人のうち3000万人がモバイル・オンラインバンクを利用して、同行は個人向け業務を8年後に100%デジタル化し、経費を大幅に削減する戦略を実行中である。

英国のザ・バンカー誌が発表する17年の世界銀行ランキング（Tier1資本で比較）では、中・東欧地域ではロシアのズベルバンクが1位（世界全体では36位、16年は51位）、VTBバンクが2位（同74位、16年が76位）、ガスプロムバンクが3位（同169位、16年が179位）と、引き続きロシア勢が上位を占めている。また、ルーブル高（16年は約20%増）を背景に米ドル換算の自己資本が増加し、世界全体のランキングにおける位置付けも16年と比較してかなり上昇した。ズベルバンクはこの1年間で自己資本（Tier1資本）を145億ドル増加させ、中・東欧地域における圧倒的な規模を誇る銀行となった。

しかし、気になるのは、ロシアの最大手銀行が国営銀行だということである。民間最大のアルファバンクはザ・バンカー誌の17年の中東欧ランキングでは5位、世界ランキングでは230位であり、Tier1資本の規模で比較するとズベルバンクの

10分の1にすぎない。さらに、ロシア中銀が13年から実施する改革により、過去4年半で332の銀行業務認可が取り消され、銀行数が885行まで減少。寡占化が進むなかで国営銀行の立場がより強化され、競争環境悪化を懸念する声も聞かれる。より高い経済成長を達成するには健全な競争が不可欠であるため、民間銀行がより活躍できる環境づくりはロシアにとって今後の重要な課題である。

〔図表〕 ロシア銀行ROEの推移



(出所) ロシア中央銀行から大和総研作成。